

台風6号出水のダム効果と ダムの洪水調節について



九頭竜ダム最大流入量

近畿地方整備局九頭竜ダム統合管理事務所は十一日、台風6号による大間のため九頭竜ダム(和泉村長野)の流入量が十

日午前九時、一秒当たり約千六百七十九を記録し、一九七三年のダム管理開始以来、最大となったと発表した。

これは七六年九月の台風11号による千三百三十三が最大で、これを大橋に上回ったことになる。同ダムが計画の時点で見込んだ最大流入量の千五百を越えたが、同事務所によるとダム自体に影響はないという。

十日の大雨では、同ダムの治水効果の基礎地点となっていた福井市中央地区で、九頭竜川の最高

水位が六・二五に達し、注意が必要となる指定水位を二・二五以上回った。同事務所は「もしダムが流れ込む事態は防ぎこたがなかったら、警戒水位(七・五)を二・一に調っている。」と説明、「和泉村朝日の国道1号8号角野橋付近は交通規制を余儀なくされたが、同村中心部に水が流れ込む事態は防ぎこたができた」と効果を強調している。

台風6号 奥越中心に大雨被害

国、県道10カ所で通行止め

台風6号は十日、奥越中心に大雨被害を及ぼした。和泉村朝日付近は、午後七時、暴風を伴った大雨が降り、奥越の十カ所で通行止めになった。奥越は、和泉村朝日付近に、奥越の十カ所で通行止めになった。奥越は、和泉村朝日付近に、奥越の十カ所で通行止めになった。



和泉に深いツメ跡

大雨から一週間経った十一日、和泉村朝日付近の国道1号8号角野橋付近は交通規制を余儀なくされた。これからの本郷を巡るキャンプシーズンの影響が懸念されている。(記者中野)

和泉村朝日付近の国道1号8号角野橋付近は交通規制を余儀なくされた。これからの本郷を巡るキャンプシーズンの影響が懸念されている。(記者中野)

国土交通省近畿地方整備局
九頭竜川ダム統合管理事務所